

2021年度商社リーグ 第一回代表者会議 議事録

日時	2021年10月13日(水)19:30-21:00
会場	ZOOM
出席チーム	下記参照
欠席チーム	なし
議事録	日鉄物産/駒形、竹内

議題	出席者																												
1 会長コメント 2 商社リーグ"NEXT25" 3 連絡事項	<table border="1"> <tr> <td>役員会</td> <td colspan="3">金田、北川、高橋、高柳、飯山、辻村、赤司</td> </tr> <tr> <td>伊藤忠商事</td> <td>大谷</td> <td>日鉄物産</td> <td>吉澤、竹内</td> </tr> <tr> <td>伊藤忠丸紅鉄鋼</td> <td>普勝、堀尾</td> <td>阪和興業</td> <td>今井</td> </tr> <tr> <td>兼松</td> <td>伊東、高田</td> <td>丸紅</td> <td>岩尾、由利</td> </tr> <tr> <td>住友商事</td> <td>中村</td> <td>三井物産</td> <td>浅井</td> </tr> <tr> <td>双日</td> <td>小池、西田</td> <td>三菱商事</td> <td>福島</td> </tr> <tr> <td>豊田通商</td> <td>中川</td> <td>JFE商事</td> <td>椎原、小笹</td> </tr> </table>	役員会	金田、北川、高橋、高柳、飯山、辻村、赤司			伊藤忠商事	大谷	日鉄物産	吉澤、竹内	伊藤忠丸紅鉄鋼	普勝、堀尾	阪和興業	今井	兼松	伊東、高田	丸紅	岩尾、由利	住友商事	中村	三井物産	浅井	双日	小池、西田	三菱商事	福島	豊田通商	中川	JFE商事	椎原、小笹
役員会	金田、北川、高橋、高柳、飯山、辻村、赤司																												
伊藤忠商事	大谷	日鉄物産	吉澤、竹内																										
伊藤忠丸紅鉄鋼	普勝、堀尾	阪和興業	今井																										
兼松	伊東、高田	丸紅	岩尾、由利																										
住友商事	中村	三井物産	浅井																										
双日	小池、西田	三菱商事	福島																										
豊田通商	中川	JFE商事	椎原、小笹																										

1 対応事項	内容	期日/担当
① 20年度感謝杯参加費返金	2チームの試合数変更により、参加費の返金を行う。	役員会/飯山
② 21年度MLへの移行	21年度MLでの配信テストを行う。	日鉄物産
③ 21年度リーグ参加同意書	リーグ参加者全員が同意書提出を行う。	10/20(水)/参加者全員
2 決定事項	内容	期日/担当
①		
②		
③		
3 情報共有及び注意喚起事項	内容	期日/担当
① 商社リーグ存続への方針	外部/内部要因よりリーグ存続危機。各チームの協力が必要。	-
② NEXT25	3つの施策を行い、持続可能なリーグ運営を図る。	-
③ 「2021謝恩杯」開催方式	1部5チームの2部制計10チームにて開催。	-
4 意見交換及び審議事項	内容	期日/担当
①		
②		
③		
5 講義及びその他	内容	期日/担当
①		
②		
③		

<内容>

議題1 会長コメント

- ・ 90年代前半の商社リーグには、幹事もおらず、要綱も定まっていなかった中、自分たちで手を取り合ってリーグの仕組みを作り上げた。
- ・ 当時はバブル崩壊による経済不況、企業によるグラウンド手放し、体育会系の採用数減少により、解散か継続かの分岐点を迎えた。
- ・ 25年経った今、まさに同じ状況を迎えている。コロナという外部要因だけでなく、属人的な組織運営という内部要因もある。
- ・ 内部要因は、役員会北川氏頼みになっている状況や主幹事を担う総合商社でも脱退を検討している状況の中、今後の存続は不透明。
- ・ 20年度感謝杯は「参加チームファースト」の運営を行ってきたが、21年度謝恩杯は「リーグ存続ファースト」に主軸を置き、運営を行う。
- ・ 各社のやる気がないのであれば解散、やる気があるのであれば皆で議論し、次の25年に繋げていきたい。

議題2 商社リーグ"NEXT25" (役員会/北川)

- ・ 過去25年間、役員会・運営幹事を中心に、様々な課題への対応を行ってきた。
- ・ コロナ禍、属人的組織運営により岐路に立たされる中で、次の25年に向け持続可能なリーグ運営を行いたい。
- ・ 役員会では3つのStrategyを策定。
- ・ NEXT25 Strategy
 - I : 企業との戦略的アライアンス
 - II : リーグカルチャーの浸透
 - III : リーグ運営のDX化
- I : 企業との戦略的アライアンス (役員会/北川)
 - これまでの金田会長に依存した属人的運営から脱却し、今後は企業連携を深め、人材・グラウンド・資金の安定確保、組織的なガバナンスへの移行を図っていきたい。
 - 具体的にはサッカー好きの各企業役員へのPRを行い、商社リーグへの賛同、資金・設備面での協力を引き出していきたい。

II：リーグカルチャーとの浸透（役員会/高柳）

- NEXT25に向け、これまでは金田会長の尽力により関係各所への啓蒙を行ってきたが、これからは、組織によるリーグコンセプトの啓蒙を、ロゴ・カラーにより自発的に進めていきたい。

- 商社リーグロゴ説明

サッカーボール×地球儀 = サッカー×商社マン
SINCE 1945 = 戦後から続くリーグ



- 4Pロゴ説明

これまで金田会長により発信されたリーグカルチャーをビジュアル化。

Pride、Passion、Punctualは、サッカーに関わるもののためサッカーボールを最後に記す。（役員会/金田会長 補足説明）

Professionalismは、商社マンだからこそのものであるため、地球儀を記す。（役員会/金田会長 補足説明）

「リーグ運営」と「リーグ参加」といった二律背反するものをManageしていくのは商社ならではの点で、

Professionalismは、商社マンを示す地球儀で表した。（役員会/金田会長 補足説明）

カラー説明

オレンジ = サッカーへの情熱、青 = 商社マンの舞台である地球、世界



III：リーグ運営のDX化（役員会/高柳）

- これまでは役員会・主幹事を中心にリーグ運営を行ってきたが、業務負荷が大きくなっている。
- 今後は、以下を筆頭に業務の自動化、効率化を進めたい。
- これにより、役員会、各幹事、各チーム、HP 業者の全業務工数は27%削減、作業時間は25%削減と試算。
 - ・ 連絡・承認申請のワークフロー化
 - ・ 試合結果入力のGoogle form化
 - ・ 試合結果・不可日集計の自動集計化
- これまで一方向の情報発信に使用していたHPを、双方向のコミュニケーションプラットフォームへ移行していく。現在外部業者に委託し、開発している段階にあり、新HPでの作業は2022シーズン開始を予定している。
- 新しいものに変えていく過程では大変な苦勞が伴うため、定着化に向け各チームの協力をお願いしたい。その一つとして、HPへのアクセスを各チーム増やし、その機能性を認識して頂きたい。（役員会/北川）
- 現状は役員会/北川氏が全業務、全工程を把握・管理しているが故に機能しているが、北川氏が欠けてしまったその途端、リーグ運営は立ち行かなくなる。その属人的運営を脱するための取り組みである。（役員会/金田会長 補足説明）

議題3 連絡事項

- ・ 「2021謝恩杯」は、1部5チームの2部制にて開催決定した。（役員会/北川氏）
- ・ 各チーム、参加者全員の参加同意書のリマインドをお願いしたい。（役員会/辻村氏）
- ・ 「2020感謝杯」の参加費が変更になるので、別途役員会より連絡する。（役員会/飯山氏）